

命をつなぐきかい

仙台市立吉成小学校四年 樋口 玲奈

五月の連休に金魚すくいをして丸ひきの金魚を連れ帰った。去年カブトムシをいれていたプラスチックのケースに水だけ入れてかいていたが、

2 1

「これでは死んでしまうだろう。」とパパが言っていて、金魚しいくセツトを買ってきてくれた。金魚ばちとじりや水草、ポンプと長いフニヤフニヤしたとう明のくだが入っていた。セツトするとくだの先から水の中にあわがブクブク出てきた。

「これで金魚たちもこまがでできるようになったぞ。」とパパが言った。

少し前にもたようなくだを見たことがあ  
る。それは冬休みになくな。たおじいちゃん  
の病室だ。ガンだ。たおじいちゃんは今  
なる一ヶ月前にきゅう急車で運ばれ入院して  
からず、と鼻のところにくだをつけていた。

「あのくたは、おじいちゃんの体の中にさん  
そを送っているんだよ。」  
とママが教えてくれた。

金魚やおじいちゃんは、あのくだがなか  
たらどうなっていただろうか。

金魚をかいて始めてから二週間くらいた  
ある日、学校から帰ると金魚が一匹き水そう  
の底にしずんでいた。その金魚は死んでいた。  
くたのブクブクは出ていたけれど、ポンプの  
フィルターが真っ黒になっっていた。パパにそ  
うじをするように何度も言われていたことを  
思い出して「ドキッ。」とした。

金魚とおじいちゃんにはフニャフニャのくた  
で空気がさんそを体の中にとりこみ命をつな  
いでいた。そしてあのくたも人間が開発した  
きかいのひとつだ。ところが、私はそのきか  
いを正しく使わなかつたために大切な金魚の  
命をうしなってしまった。きかいは命をつな  
ぐことができるけれど、人間がきちんとして手入  
れをして動かさなければきかいはそのものの働

きができないということを知った。

今、私の家には八ひきの金魚がいる。これからはきちんとそうじをしてきかいを正しく動かして、金魚の命を守りたいと思っている。